

そんなにも集めてぶっつけるの



収蔵資料展

頌栄短大植物標本コレクション

シジミヘラオモダカ

～三木の女学生が自由研究で採集した新種標本～

—古環境を復元する—

私たちは昔の出来事をどのようにして知のでしょうか。文字で書かれた記録があれば、それを読み解くことで過去のことがわかります。しかし、文字のない時代となれば、そうはいきません。地層を通して過去を読む。それは地質時代の出来事をさぐる唯一の手段です。地層をつくる岩石や堆積物中には、過去に起こった地球上の出来事が記録されています。その記録をさまざまな科学的手法を用いて読み解くことにより、過去の環境(=古環境)を知ることができます。

当館の地学系収蔵庫には、県内の地盤調査で採取されたボーリングコア(写真1)や、研究員が採集した岩石や堆積物が保管されています。その収蔵資料を活用し、古環境を知る手法の一つに、堆積物中の珪藻化石を調べる「珪藻分析」という方法があります。

珪藻は微小な単細胞性の藻類で、海、河川、湖沼などの水域に広く分布



写真1
ボーリング調査の様子と採取されたコア堆積物(下)。

し、水域によって生育する種類が違います。珪藻の細胞は珪酸質の殻に被われ、細胞の死後も殻は分解されることなく、堆積物中に化石として残ることがあります。このため、堆積物中に保存された珪藻化石の種類を知ることによって、地層がどのような環境でできたかがわかります。たとえば、干潟に生育する珪藻(写真2)は、地層が海水面付近でできたことを教えてくれます。これを手がかりに海水面を示す地質データを集めることで、過去の海面変動を復元することができます(図1)。

佐藤 裕司 (自然・環境評価研究部)

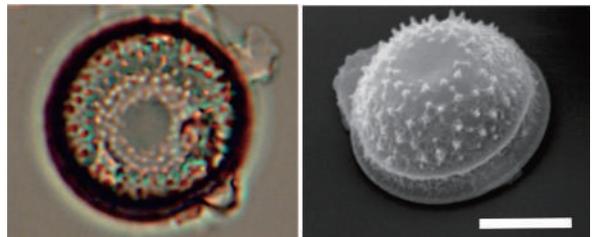


写真2
干潟の環境を示す珪藻*Pseudopodosira kosugii* Tanimura et H. Sato (スケールバーは5μmを示す)。

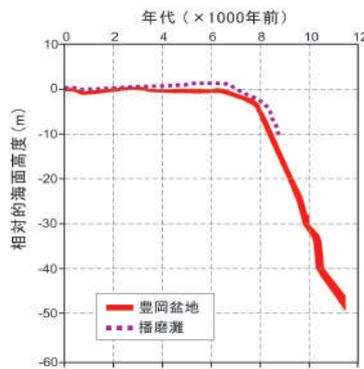


図1
珪藻化石を用いて復元した過去約1万年間の海面変動曲線。過去1万年間で海面はおおよそ30m上昇したことがわかります。

トピックス

新入館員 自己紹介



次長
武田 雅和

次長の武田です。コロナ禍のため生活の中で様々な制約が生じています。こんな時だからこそ、あらゆる世代の方々の心に、ゆとりと安らぎを与えられる、そんな博物館となるよう頑張ります。



総務課
稲谷 岬

4月に県立高校から異動してまいりました。博物館での勤務は初めてなので、戸惑うことも多くありますが、何事にも楽しんで取り組んでいきます。よろしくお願いたします。



総務課
長田 智子

子どもの頃に遊びに来た「ひとほく」に、総務課職員として勤務することになりました。皆様に親しみを持っていただける博物館になるよう精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。